

参加漁業士

所 属	氏 名
国頭漁協	比嘉 行三 (漁業士会会長)
金武漁協	玉城 幹孝 (漁業士会副会長)
伊江漁協	宮里 義高
伊是名漁協	名嘉 治市
沖縄市漁協	小嶺 仁 (沖縄市漁協組合長)

所 属	氏 名
糸満漁協	安谷屋 秀喜 (漁業士会監事)
港川漁協	上原 清秀 (漁業士会副会長)
久米島漁協	渡名喜 盛二
〃	仲与志 勇
	池田 元 (漁業士会監事)
八重山漁協	

◆漁業士活用育成事業

平成20年度漁業士認定事業

水産業改良普及センター 牧野清人

1. 漁業士認定及び審査状況

漁業士制度は、地域漁業振興の中核的漁業者を育成する目的で、昭和61年度から全国一斉にスタートしています。本県も昭和61年度には6名の漁業士が認定され、これまで約70名の漁業士が誕生しましたが、病気や転職等により平成20年4月現在で43名となっております。その内訳は、名誉指導漁業士4名、指導漁業士30名、青年漁業士9名であります。平成19年度は漁業士認定審査会が平成20年12月16日に開催され、青年漁業士が1名認定されましたので紹介致します。

2. 平成20年度認定漁業士紹介

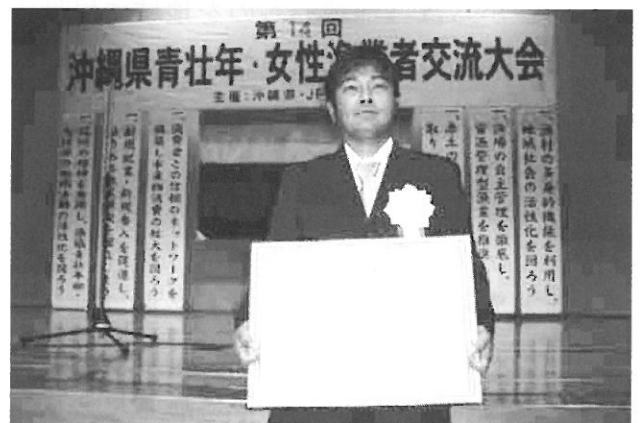
田端裕二 青年漁業士 (久米島漁協)

昭和53年7月11日生まれ (30歳)

平成9年3月に沖縄県立久米島高校を卒業後、東京都の送電線鉄塔工事請負業に従事したあと久米島に戻り、父親等とモズク養殖並びに追い込み網漁業、一本釣り漁業、採貝、電灯潜り漁などを行ってきた。組合のモズク養殖生産部会にも所属しており、品質の良いモズクをつくるために漁協や他の生産部会員らと一致団結し、県内外の加工業者との情報交換など積極的に行っている。追い込み漁業においては仲間と共に

試行錯誤の末、網を改良し、水揚げ効率を向上させた。その他建て延縄、電灯潜り等、先輩漁業者からの指導を受けながら技術を習得し、平成18年度には久米島漁協の青壮年部長に就任、現在も地域の若い漁業者のリーダーとして活躍している。中でもモズク養殖において、培養種の保存方法や種付け方法等、県水産海洋研究センターや海洋深層水研究所、水産業改良普及センターの職員と積極的に交流し、技術向上を目指している。主な業種として11月から6月の間モズク養殖業を営む他、一本釣り、追い込み漁、電灯潜りも行っている。

平成18年度青壮年女性漁業者交流大会において「故郷の海で生きていくために」という表題で若い漁業者の活動について発表した。



第33号青年漁業士に認定された田端裕二氏